

# バザーのお知らせ

今年も毎年恒例のトロント本願寺バザーの時期がやってきました。



日時：十一月九日(土)

十二時三〇分〜十六時三〇分

トロント本願寺では当日のボランティアや品物の寄付などを募集します。

「もう使わないこのミキサーはどうすれば？」  
トロント本願寺の毎年恒例のバザーのホワイトエレファントセールに寄付してください！

もう使わなくなった、または一度も使ったことがなく、どうしてもいいかわからない品物の寄付を募集します。十月初旬から品物の受け取りを開始します。

※衣類はご遠慮ください。

また、寄付したいコスチュームジュエリーやファッションアクセサリーをお持ちですか。ジュエリー、アクセサリー、テーブルで販売する商品も必要です。

流行から遅れたと感じるもの、ビンテージ、またはもう着ないと思われるものは、誰かの喜びとなり、寺院の募金活動にも役立ちます。

こちらも十月初旬から募集します。

寺院にジュエリー、財布、スカーフなどをお持ちください。



過去のバザーの様子

## モミジのオープンハウス

トロント本願寺では、月に一度、毎回第二木曜日にモミジにて法要を行っております。

そのモミジがオープンハウスイベントを下記の日程で開催する予定です。

十月十一日(金) 十時から十三時まで

モミジの歴史や使命が紹介され、実際に施設見学やアクティビティの参加ができるそうです。

参加者には軽食が用意されるため事前申し込みが必要となっております。ご興味ある方は、モミジにお問い合わせください。



二〇二四年十月

### 寺院の会員および法友の皆様へ

百二十年前の一九〇四年十月、仏教の在家指導者たちは寺院を建てることを決定し、西本願寺にカナダに僧侶を派遣するよう依頼しました。一年後の一九〇五年十月、佐々木千重先生がカナダに到着し、最初の法話をしました。

そして一九七四年十月、カナダの浄土真宗信者全員を全国的な仏教コミュニティとして結集するための公式組織として、カナダ教団が設立されました。

毎年十月に行われるJSBTCデーは、カナダ教団の設立を記念するものであり、カナダ全土で浄土真宗を存続させ、寺院を結集させるためにJSBTCが行っている活動を思い出させてくれます。

これは、カナダで浄土真宗の布教に貢献した先人たち、そして今日も法を弘めるために働いているすべての人々を、感謝の気持ちを込めて思い出す機会です。

JSBTC デーに、お寺を通じて、または直接 JSBTC に寄付していただいたすべての寄付は、僧侶の健康と教育、および開教総長の活動の支援に充てられます。この重要な取り組みには、JSBTC への皆様のご支援が必要であり、大変ありがたく思っています。

小切手は JSBTC 宛に送金できるようになりました。寄付は、<https://www.canadahelps.org/en/charities/LivingDharmaCentre/> の Canada HelPs を通じて行うこともできます。

このリンクでは、JSBTC への一般寄付、開教使退職基金、Living Dharma Centre、または仏教婦人会連盟への支援を指定できます。

JSBTC は引き続き開教使と各地の寺院を支援しておりますので、引き続き JSBTC をご支援をお願いいたします。

合掌

カナダ教団 理事長

杉本ローラ

(橋本訳)

### 枕経について

ご家族の枕経を検討されている場合は、事前に当寺院の事務所へご連絡いただくようお願いしております。

ご希望の時間を調整し、亡くなられる前であれば、ご一緒に臨終の仏徳讃嘆のお勤めを、亡くなられた後であれば、故人を偲びながら、ご家族の皆さんと仏徳讃嘆のお勤めをさせていただきます。

当寺院に事前にご連絡いただくことにより、ご家族の質問への対応や必要な情報を提供することが可能となります。

枕経についての連絡、質問については、(416) 534-4302

あるいは、[tbc@tbc.on.ca](mailto:tbc@tbc.on.ca) まづご連絡いただくようお願いいたします。

留守の場合はメッセージを残していただき、担当者が折り返し対応させていただきます。

トロント本願寺 理事会

## 祥月法要のお知らせ

祥月法要とは、祥月命日（故人が往生された月のご命日）をご縁として仏法に遇い、阿弥陀さまの仏徳を讃嘆し、報謝の思いでお勤めする法要です。

十月

日時：十月六日

(英語：午前十一時から)

(日本語：午後一時から)

講師：杉浦 輝 先生

十一月

日時：十一月三日

(英語：午前十一時から)

(日本語：午後一時から)

講師：青木 龍也 先生

ZOOMでの参拝を希望される方は、その旨を [tbc@tbc.on.ca](mailto:tbc@tbc.on.ca) までお知らせください。寺院事務所から Zoom Link を送らせていただきます。

故人が祥月でない方もご遠慮なくご参拝下さい。



お寺は、人々からの懇志によって運営がなされていきます。様々なお寺の活動費や私の生活もその懇志によって支えられています。

しかしながらこの懇志は仏さまへの懇志であつてそれ仏さまからのお下がりとしてお寺の活動に使わせていただいているという意識が残念ながら私自身も薄いまま四月から過ぎしてしまつていたなと反省しております。

お寺の中心は僧侶でもメンバーでもなく仏さま、浄土真宗のお寺においては阿弥陀様であるということ。このことが文化センターやコミュニティセンターへの寄付とお寺の懇志との大きな違いであると思います。

私たちは幸いにして、阿弥陀仏のみ教えに出遇わせていただくことができ、またお聴聞を続けることのできる環境にあることを何よりも喜ばせていただきます。

故人の言葉のように阿弥陀様のおはたらきへの感謝、讃嘆させていただき、阿弥陀様を中心とした人生をこれからも過ごさせていただきましよう。

十月七日から十二月十一日までの約二か月間正式に海外寺院における開教使になるためのプログラムをカルフォルニア・バークレーにて受講するためトロントを離れます。

不在時にご迷惑をおかけしますが、年忌法要をご希望の方は時期をずらして十二月に行うことを検討していただくと幸いです

南無阿弥陀仏

トロント本願寺 駐在僧侶

橋本 顕正

## 二〇二四年

### カナダ教団創立記念をむかえて



「前に生まれん者は後を導き、後に生れん者は前を訪(とぶら)え。」

『安楽集』 道綽禪師 [562-645]

一九〇五年十月十二日に、佐々木千重先生夫妻がカナダの最初の開教使としてバンクーバーに到着し、カナダ開教区の歴史が始まりました。浄土真宗がカナダで最初の仏教グループとなったわけですが、その歴史には多くの困難な時代・状況がありました。

日系カナダ人基金支援のもと、八月二十四日にバンクーバー仏教会メンバーと一緒に強制収容地の一つであった「ashme」（「多志美」タシミ）を訪れました。タシミは一九四二年に始まり、二六四四名の日系カナダ人が収容されていたそうです。今でも住居を含め一部の建物が当時のまま残っていて小さな博物館もあります。

当時の写真や生活の様子の展示品、収容時のドキュメンタリーを見ました。いつ解放されるか先の見えない不安や不慣れた生活を送った当時の人々の苦勞は計り知れませんが、今、私たちが当たり前のように仏教会へ参拝に來たり、お饅頭を作ったりできることは、移民当初の方々の苦勞、そして戦後に仏教会再興を果たした

人々のお陰です。

来年二〇二五年は、カナダ開教区の百二十周年を迎えます。道綽禪師のお言葉にあるように、先人たちのお導きを大切にして、今後お仏法を聴聞し、私たちが後の世に生きる人を導けるように仏教会を護つていきましよう。この百二十周年が私たち自身、仏法に出遭えたご縁を喜べる年としたいものです

合掌

カナダ開教区 総長

青木 龍也



写真: タシミでの参拝

# 佛心

二〇二四年十月号

浄土真宗 本願寺派

トロント本願寺

はわかっていいるんですけども、やっぱり悲しいです。でも悲しいだけじゃない。別れの苦しみを転じて喜びに、また会える世界があるということ聞かせていただきました。

お葬式のあつた週末にはご家族の家に招待していただき、ディナーをご馳走になりました。その家の仏壇には故人の書いた文章が書かれた紙が置いてありました。ご家族の承諾を得ましたので、少し抜粋して書かせていただきます。



## 仏さまが中心の生活を

トロントに来てから早くも半年が過ぎようとしています。この半年間の間に私がお勤めさせていただいたトロントでのお葬式のご縁の数はもうすぐ二十を超えますが、先月には、初めてこの半年間で出会わせていただいた方の葬式を執り行わせていただきました。

その方は、いつもモミジのサービスに参加してくださいました。サービスではお茶やお菓子の準備をしてくださり、とても元氣な姿を見せて下さっていた方だったので、正直まだ信じられない気持ちです。

モミジでは、「先生ご苦勞様です」と必ず声をかけてくださって、英語を話すのに苦勞している私にとっては数少ない日本語で氣兼ねなくお話できる方でした。

やはり知っている方のお葬式というものには自然と感情が入ってしまうものです。お経を唱えながら、ご家族の弔辞を聞きながら、そして法話をしながらその方との思い出が頭の中で思い起こされ、こぼれそうな涙を堪えるのに必死でした。

出会いと同じ数だけ別れがある。そんなこと

その方は確かにお念仏を、阿弥陀仏のみ教えを抛り所として生き抜かれた方であつたと感じさせる文章です。

こうして浄土真宗の教えは、仏さまを中心として、お念仏を大切にする人々によって現代にまで受け継がれてきました。南無阿弥陀仏、同じ阿弥陀さまのはたらきによって救われていく

いのちであるから、また会える世界がある、そして今もお念仏を通して、先にお浄土へ往かれた大切な方々とながら続けることが出来るのです。

後日、その方と長年にわたって友人である方と普段食べているものの話になりました。日本食を食べるのか、洋食を食べるのかというような話です。

その方は、「昼や夜には日本食に限らず色々な食べ物を食べますが、朝は決まって日本食です。先生、だつてお仏壇にご飯を毎朝お供えするじゃないですか。」とおっしゃりました。

自分が朝にご飯を食べるからご飯を仏壇にお供えするのではなく、仏さまにご飯をお供えするから自分も朝にご飯を食べるのです。どちらでもいいように聞こえるかもしれませんが、常に仏さまを中心とする生活、仏さまをお敬いする生活をその方が送っていることがわかるお言葉でした。

このように仏さまを中心とした生活を送られている方々によってトロントのお寺も今日まで支えられてきたのです。決して私の生活をよりよいものにするために仏さまの教えを利用するものではありません。このことを強く思わせていただきました。

九月の祥月法要から、毎月の祥月には懇志上納の機会を設けることにしました。これは私がカムループスにいた時にお寺で行われていたもので、意識を変えることを目的に取り入れましたが、他のメンバーさんからトロントでも過去に行われていたことを教えてもらいました。